

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570500233		
法人名	社会福祉法人 ときわ会		
事業所名	グループホームひなもり	ユニット名	花町
所在地	宮崎県小林市堤4380番地		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町村受理日	平成24年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570500233&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の花と一緒に鉢植えしたり、中庭にも花を近くで鑑賞できる楽しみがあります。受診時の帰り等、買い物したり楽しみの一つとしてあります。毎日、職員と一緒に食事を摂っている。温泉浴も隔週で行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員で考えた理念に沿った優しさ、温もり、安らぎの生活の場が見える。昨年、全てバリアフリーのフローリングに改装し、明るく清潔感、整理整頓も行き届き、落ち着いた雰囲気となっている。3ユニット共にどこからも人の姿や声が聞こえ、孤立感を感じさせず、雪見障子の引き戸や入口戸の開閉でプライバシーも確保できている。面談中に、利用者の弾くパイプオルガン演奏が流れていた。おむつ委員会では、昼夜を問わず、おむつに頼らない快適な生活を目指し、勉強会を重ね、現在は各人に見合ったトイレ誘導や介助が功を奏し、多くの利用者が自立か、それに近い状態になっている。近くにある同法人運営の温泉で、利用者地域の人との交流も図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念を掲げ、意識付けを行っている。	職員全員で考えた理念を文書化し、各ホームの一番見やすい場所に掲示し、実践に向けて取り組んでいる。利用者とは目線を合わせて笑顔で接し、常に人生の先輩ということを意識した声掛けをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々を呼んで交流したり、地域の保育所へ訪問し、交流している。	近くで農作業をする人たちと一緒にお茶を飲んだり、隣接する法人運営の温泉に出入りする人たちとの交流があり、地域とのつながりを増やしていこうとしているが、自治会への加入はまだない。	自治会に加入し、地域の行事などの情報を積極的に集めたり、ホームから働きかけて、交流の機会を増やしたりと、「地域の一員」としてなじみ、協力体制を築いていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの問い合わせなどに対応している。認知症の方などとの関わり等、相談にのっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見は、月一回、定例会議にて報告し、議事録も見られるようにしている。	運営推進会議は、家族代表者、地域代表者、市、地域包括支援センターとホーム代表者で構成されている。災害対策についても活発に意見交換がされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員を招いての勉強会を行っている。運営推進会議等を開催し、問題点やわからない事等、アドバイスを受けている。	市担当者と様々な機会を通して連携を図り、課題解決に向け、一緒に取り組んでいる。市職員が出向いて、職員研修を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束を理解し、利用者にも与える影響を考えているが、施錠せざるをえない場合あり。	鍵をかけない暮らしの大切さを全職員が理解しており、利用者の様子を細かく観察し、見守りを行っている。利用者の自由な暮らしを支えながら、利用者の動線に沿って手すり、ベッドを低くするなど、安全面にも配慮した対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の話に耳を傾けたり、入浴時、身体面での観察にも気を付けて、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットも設置し、周知を図っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分で発言できる利用者については、スタッフへの訴えができ、問題解決へ努力している。また、家族に状態報告を電話し、お知らせしている。		ホームの玄関には、意見箱の設置があり、外部評価報告結果表も自由に閲覧できる状況にある。遠方の家族には、ホーム便りを郵送し、意見や要望を聞いたり、体調に変化のあるときは、随時電話で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や疑問などを聞いたり、定例会議で話す事もある。		管理者は、定期的にミーティングを開催し、職員の意見交換の場を設けている。個々の職員が思いを持ち、意見を言いやすい雰囲気がある。ホームで解決できないことは、法人にも報告や相談し、運営に反映できるような取組がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の整備に努め、労働時間厳守での働きが出来るよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成を考え、施設内・外の研修を受ける機会を設け、係の担当を持たせ、各委員会に参加し学んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流、研修を定期的に行い、交流を深めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に向き合い、気持ちを聞き、受け止めるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人の要望を聴き、思いなどの理解に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネと協力して、何が必要か見極めて、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす事で、喜怒哀楽を共にする事を大切にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話、葉書等にて報告し、家族の意向を聴きながら、関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会時は、再度面会して頂けるようお願いしている。また、自宅、墓参りを行っている。	住み慣れた地域の祭りに参加したり、近くの岩戸神社へ出掛けたり、墓参りをしたりするなど、家族の協力を得て、本人が望むなじみの場所に、できるだけ行けるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を理解し、孤立にならないように声掛けし、レクリエーションや作業を共に楽しめるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会などを行っている。家族が気軽に立ち寄って頂けるよう、付き合いを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、希望や思いを汲み取るよう努力しており、本人の希望に添えるよう行動している。	利用者との日々の会話の中から、希望や思いを把握できるよう意識して接している。知り得たことは職員同士が共有し、できるだけかなえられるよう、臨機応変に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や他事業者から情報提供してもらい、利用者との会話の中で、情報を知ることがある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来ることを一緒に取り組みながら、日々のケアで気づいたことなど、その都度申し送りをし、把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と担当が話し合い、意向を取り入れ、作成している。	利用者の心身の状況を基準に沿って判定し、課題抽出を行い、介護計画書を作成し、3か月に1回の見直しをしている。日々の気づきノートや利用者一人ひとりのリスク管理シートの記録はあるが、介護計画に十分に生かされていない。	入居者のささいな変化や観察した内容を記録に残し、介護計画にも反映させ、予防的なかわりやケアの提供へ生かす取組を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に取り組んでいるが、ケア記録不足があり、職員間で情報・気づきなどの実践に心掛けている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族が安心して暮らせるよう、通院外出等、支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安心して暮らせるよう、地域住民、消防、警察との連携に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の同意を得て同行し、かかりつけ医と事業所と連携し、医療を受けられるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の変化やバイタルチェックを行い、気づいたら看護師や上司との連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と家族との情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化となった場合、家族、医療機関と連携し、本人に合った支援が出来るよう話し合っている。		本人や家族の意向を重視し、医師と常に連携を取りながら、本人が望む場所で最後まで暮らせるよう、できる限りの支援をしようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に、適切な行動が出来るように、緊急時の訓練をしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の定例会議等で、避難経路を確認し、夜間、足元の安全確認を点検している。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には、日頃より丁寧な言葉かけを行い、利用者の立場になり対応している。	利用者は、人生の先輩であるとの意識を持ち、一人ひとりの性格や習慣、気持ちを大切に言葉かけや見守り、介助をしている。恥ずかしさや不快感を感じさせないよう、「さりげなく」を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の様子を観察し、本人の思いを把握できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の流れは決まっているが、本人のペースに合わせて、過ごして貰っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧されたり、髪型を変えたり、本人のしたいようにおしゃれをしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1ヶ月に1回は、職員と利用者が一緒に食事をとれる催し物がある(誕生会)。	メインの肉料理を「どのくらいの大きさに切りましょうか」と、利用者一人ひとりに尋ねるなど、細やかな配慮がある。同テーブルで一緒に会話し、楽しい食事風景ではあるが、職員は全員手弁当を食べている。	利用者と同じものを職員も一緒に味わいながら、食を通して五感を刺激したり、懐かしい食べ物を思い起こすなど、食事への関心を引き起こし、「口から食べることを諦めない」ための取組を期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事状況を観察しながら、食欲のない方には、本人の好みのものを提供している。排泄状況を確認し、水分補給を調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯ケアを職員が見守りながら行い、自立されていない方は、介助している。口臭のある方は、随時口腔ケアをして頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パットを使用し、本人に応じた排泄パターンを知ることで、失禁も少ない。夜間はポータブルトイレを使用し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	おむつ委員会で勉強を重ね、一人ひとりの排泄パターンをしっかり把握し、各人に見合ったトイレ誘導や介助が功を奏し、多くの利用者が排泄は自立か、それに近い状態になった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、個々の排泄パターンを把握している。ヤクルトを飲用したり、水分を多く補給するなど、工夫している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めてあるが、体調や希望に合わせて、随時入浴を行っている。また、温泉浴も楽しんでいただいている。	入浴は週3回を基本としているが、入居者の気持ちや状態によって、柔軟に対応している。3ユニット共に浴室があり、必要に応じて利用し合っている。ホームに隣接した温泉を利用することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れないときは、ゆっくり話をしている。休憩は自由に、好きな場所で休めるよう声掛けを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の台帳を使用し、個々の薬をすぐに確認出来るようにしている。状態の変化を見逃さないようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や野菜を育てたり、縫い物など、個々に合わせた支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々で外出や買い物に出かけている。希望によっては、散髪、外食等も家族に協力を貰いながら行っている。	個々に家族の協力を得て、買い物や地域の祭り、墓参りなどに出掛けている。ホームの敷地内は広々としており、花壇が点在する中を一緒に散歩するなど、外気浴を兼ねて外出の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	花町	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者には、本人が欲しいものを購入できる機会を作り、自由に買ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望した時は、自由に話せるような支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音などには配慮し、常に穏やかに過ごせるよう、好きな音楽を流したり、トイレ、居室、ホールに季節の花を飾ったり、中庭には常に草花があるようにしている。		玄関から3ユニットに広がるバリアフリーのフローリング、木の香り、併設したユニットの窓越しには、行き交う利用者や職員の姿が見えて、孤立感を感じさせないようにしている。ホーム内には、利用者が弾くパイプオルガンの音色が、心地良く流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を複数設け、利用者が選択できるような工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の身体の変化によって、昨年、畳からフローリングに改装したことで、生活環境が整った。家で使用していたテーブル、椅子などを持ってこられている。居室に物を置けない方も居るが、その方に応じて支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るよう、手すりを取り付けている。利用者が解るように、文字を大きく見える位置に表示している。			